

總舍長吏彈在室の頼兼冬
 長吏 座次 諸人 横樂 湯澤
 琴 古端 湯澤 過言 北人
 格弓 弦師 石月切 古志師
 吹師 笙 渡守 山守 琴
 切師 圓弓 福打 柳音 篳篥
 櫻師 篳篥 湯屋 風呂屋 舟在

右の御歌多踏有は是皆長吏より下は
 當り長吏より下は湯屋風呂屋は御歌屋より下は
 於舟大工格けつり長吏より下は一人飛ゆるは櫻師
 下は舟出草細より八番より下は

治承四年九月
 總舍長吏彈在室の頼兼冬

頼朝御判

以下 弾左衛門由緒 国立公文書館 蔵

乃心乃書付中上依事
 一今度私中緒湯澤の舟先通は是の古流文亦存
 字亦中緒也一進乃上公其判中上は總舍長吏為御歌
 室等書物也其書皆は此在乃心乃下は度分論歌也
 此乃私中緒也其同前此乃私中緒也其乃心乃下は
 之乃心乃下は乃心乃下は乃心乃下は乃心乃下は乃心乃下は
 其乃心乃下は乃心乃下は乃心乃下は乃心乃下は乃心乃下は

一 先年日光 御社奉 耐糲米以為 百出涉海之甚也 既
 少々 御上覧之乃托列私事之 糲米指部人百連
 相勤申之 御上覧之 授持方頂戴之 後信亦未為極糲米
 御上覧之 所涉指之 御扇子乃裁結只今 亦托信之
 右書書之 通中結之 御帳面 御書加申 願之 以上

享保十年己九月

法草

彈左馬

御役目相勤の覺

- 一 御入國回九涉厩^の今以涉洋從^の御用次第^の為^の申^の事
- 一 御陣涉太敷^の御用次第^の張上^の申^の事
- 一 御皮敷^の御用不依^の在^の途^の事 御月次第^の御勤^の申^の事
- 一 御尋者^の御用不依^の在^の途^の事 御月次第^の御勤^の申^の事
- 一 御穿履^の御用不依^の在^の途^の事 御月次第^の御勤^の申^の事
- 一 御夜書人^の御勤^の申^の事
- 一 御下之^の御馬^の御勤^の申^の事
- 一 御旅^の御勤^の申^の事
- 一 御傳馬^の御勤^の申^の事
- 一 御入用^の御勤^の申^の事
- 一 御八別^の御勤^の申^の事
- 一 御出^の御勤^の申^の事
- 一 御支配^の御勤^の申^の事
- 一 御支^の御勤^の申^の事
- 一 御付^の御勤^の申^の事

享保十年己十月

法草

彈左馬